

資料1 第1回検討協議会（7/19）での主な論点と意見対応表

1. 主な論点

- (1) 都市マスタープラン見直しのスタンスと方向性
- (2) 見直しで追加・強化すべき視点・テーマ

2. 主な意見

(1) 都市マスタープラン見直しのスタンスと方向性

① 見直しのスタンス

- ・ 見直しの方向性に関する区の考えの提示。
- ・ 見直しプランの構成（目次立て）とまちづくり白書の位置づけの整理。

② 都市マスの方向性（都市マスの使い方）

～どこまで書き込んだプランにしていくか～

- ・ 都市計画に落とし込むことを見据えた計画にしていくことが必要。
- ・ 何をどんな手段（都市計画）で実現しようとしているのかの明確化。
- ・ 都市計画に留めた計画にするのか、まちづくりを広く捉えた計画にするのか。
 - 広い意味でのまちづくりについても書かないわけにはいかないが、書きすぎると都市マスの役割がわかりにくくなってしまうことが危惧される。
 - 福祉・教育やエリアマネジメントの視点も書かないと目指すべき都市像にはならない。
 - 土地利用で何を指すのか（都市計画でできること）と、どういった暮らしを目指したいのか（都市計画でできないこと）といった議論は、分けてできるとよい。
 - ◇ 典型的な地区をモデルケースに土地利用の特性と将来の方向性を議論できるとわかりやすいかもしれない。

～横断的な議論の検討～

- ・ 部門間の横断的・総合的な検討（横串の検討）。
- ・ 庁内的には縦串でどう説明していくかをクリアにしていくことも必要。
- ・ 災害、地球温暖化、高齢化等の取り巻く課題に対して、如何にして効率的に強靱な社会資本を整備していくかが根本的な課題。グリーンインフラを全ての分野を横断するコンセプトとして整理してはどうか。
- ・ 新しい視点は、公共だけでできないテーマが多いため、都市マスでどこまで取り扱うことができるかが課題。新しいものと今あるものをどう融合させていくかがポイント。

～検討上の留意点～

- ・ 都市計画で良くないのは成り行きでまちが変わってしまうこと。先取りして必要な規制誘導をしていくことが大切。
 - 現状とこの先のトレンドを示唆するデータがあるとよい（例：土地利用転換の可能性のある場所や再開発の予定など）。
- ・ カタカナの言葉などは、みんなが共通認識できる言葉で議論していけるとよい。
- ・ 区民との対話の中で個々の内容を詰めていく必要がある。地域で熱心にまちづくりの取組みをしている方の意見等は、地域別の方針等に入れた方がよい。
- ・ 地域別市街地像であれば、ある程度ワークショップやそれぞれのまちづくり活動と連動した方向性を示せると思う。

(2) 見直して追加・強化すべき視点やテーマ

◆：今後追加すべき資料

① 部門別の視点

(土地利用)

- ・ 持続的まちづくりに向けて保全だけでなく開発の視点も入れていくとよい。
- ・ 地域別の人口特性などからみた土地利用の見直し。
 - ◆ 通勤・通学データなどの地域別人口データ
- ・ 1階の商店のあり方や駐車場附置義務など商店街に関する議論。
- ・ 地域によって高さ制限を分けて、保全と活用を進めていけるとよい。
 - ◆ 建物の高さの議論につながる資料

(道路・交通)

- ・ 電動自転車の普及等による自転車走行空間のあり方。
 - ◆ 歩行者や自転車に関する資料

(環境・エネルギー、防災)

- ・ 温暖化を見据えた適応策（アダプテーション）と災害への回復力（レジリエンス）の視点が重要であると感じる。
- ・ 防災について、今後は「災害を難なくこなす」ことが次の目標であり、災害時自立生活圏の構築に向けた議論が必要。

(大学や民間によるまちづくりとの連携)

- ・ 大学の動きやディベロッパーのまちづくりの意向とのすり合わせが必要（中央大学新キャンパス、東京大学周辺、東京ドーム等）。

② その他の視点

- ・ 隣接区境界付近では相互に影響が大きい。隣接区プランとの調整による水平的議論が必要。
 - ◆ 近隣区の都市計画マスタープランの概要
- ・ 地区を分けて考える必要があるだろう。また、地区同士の繋がりも示していけると良い。
- ・ アフターコロナに対応した外国人の視点が必要ではないか。
- ・ SDGs に関して触れるのであれば、都市計画で実現できるターゲットとゴールを明確にしていく必要がある。

3. 主なご意見に対する対応

ご意見		対応（案）	関連資料 等
1	見直しのスタンスについて	見直しの方向性に関する区の考えの提示。	資料4
	見直しプランの構成（目次立て）とまちづくり白書の位置づけの整理。	○見直しの方向性を整理した。 ○目次構成の大枠は継承していくが、社会動向等を踏まえ、必要に応じて部門や項目の追加、現行プランの修正を行う。 ○地域別方針については、現行プランの5つの地域を継承し、現況や地域でのまちづくりの状況を整理したうえで、必要に応じて、方向性を見直し・追加を行う。 ○「(仮)まちづくり白書」は、都市マス見直しのための資料のひとつとして、内容は現行都市マスの平成23年から、都市マスに関連する項目の変化が分かる客観的データをまとめたものとする。なお、名称も「文京区 都市の概況」に変更する。	資料4 参考資料1
2	都市マスの方向性について	都市計画に留めた計画にするのか、まちづくりを広く捉えた計画にするのか。	資料4
3	土地利用で何を指すのか（都市計画でできること）と、どういった暮らしを目指したいのか（都市計画でできないこと）といった議論は、分けてできるとよい。 ⇒典型的な地区をモデルケースに土地利用の特性と将来の方向性を議論できるとわかりやすいかもしれない。	○地域別方針の議論の中で、典型市街地における都市の変化の整理などにより検討していきたい。	継続検討
4	部門間の横断的・総合的な検討（横串の検討）。 庁内的には縦串でどう説明していくかをクリアにしていくことも必要。	○社会動向等を踏まえた新たな視点から横断的整理を行い、各部門の複層関係を整理し、部門間連携を図っていく。	資料4 継続検討
5	災害、地球温暖化、高齢化等の取り巻く課題に対して、如何にして効率的に強靱な社会資本を整備していくかが根本的な課題。グリーンインフラを全ての分野を横断するコンセプトとして整理してはどうか。	○グリーンインフラに関しては、都市マスタープランの見直しで重要な視点となることは認識しており、グリーンインフラを全ての分野を横断するコンセプトとすることについては今後検討したい。	継続検討
6	新しい視点は、公共だけでできないテーマが多いため、都市マスでどこまで取り扱うことができるかが課題。新しいものと今あるものをどう融合させていくかがポイント。	○方針検討に当たっては、主体とそれぞれの役割を整理しながらまとめていく。	継続検討
7	都市計画で良くないのは成り行きでまちが変わってしまうこと。先取りして必要な規制誘導をしていくことが大切。 ⇒現状とこの先のトレンドを示唆するデータがあるとよい（例：土地利用転換の可能性がある場所や再開発の予定など）。	○「文京区 都市の概況」で可能な限り整理する。 ○各地域でのまちづくりの状況などについては、今後、検討を進めていく地域別議論の中で資料を提示する。	参考資料1 継続検討
8	カタカナの言葉などは、みんなが共通認識できる言葉で議論していけるとよい。	○カタカナの言葉などは可能な限り避け、皆さんが馴染みある言葉で議論が進められるよう留意する。 ○専門的・聞きなれない言葉を用いる場合は、その概念などを説明する資料を用意する。	-
9	区民との対話の中で個々の内容を詰めていく必要がある。地域で熱心にまちづくりの取組みをしている方の意見等は、地域別の方針等に入れた方がよい。	○各地域でのまちづくりの状況などについては、今後、検討を進めていく地域別議論の中で資料を提示する。	継続検討

ご意見		対応（案）	関連資料 等	
10		地域別市街地像であれば、ある程度ワークショップやそれぞれのまちづくり活動と連動した方向性を示せると思う。	○今回の見直し検討では、オープンハウスや説明会等を通して区民の方の意見を聞いていきたいと考えている。 ○これまで実施したアンケート調査については、どのように都市マスに反映したかをわかるように整理していく。	継続検討
11	部門別の視点	・地域別の人口特性などからからみた土地利用の見直し。通勤・通学データなどの地域別人口データがあるとよい。	○「文京区 都市の概況」で町丁目別人口の傾向を整理。	参考資料 1
12		・高さに関する議論を改めてしていきたい。建物の高さの議論につながる資料を出してほしい。	○「文京区 都市の概況」の「2 土地利用と市街地整備」で高さに関する資料を整理。	参考資料 1
13		・区民意識調査で期待度の高かった歩行者や自転車に関する資料を出してほしい。	○「文京区 都市の概況」の「3 道路・交通」で整理。	参考資料 1
14		・大学の動きやディベロッパーのまちづくりの意向とのすり合わせが必要	○「文京区 都市の概況」の「2 土地利用と市街地整備」で地区まちづくりの状況を整理。 ○今後、検討を進めていく地域別方針の議論の中でも資料を提示する。	参考資料 1
15	その他の視点	隣接区境界付近では相互に影響が大きい。隣接区プランとの調整による水平的議論が必要。	○隣接区との計画と整合を図りながら、連携をとれたまちづくりを検討していきたい。	継続検討
16		地区を分けて考える必要があるだろう。また、地区同士の繋がりも示していけると良い。	○第 4 回協議会で地域別まちづくり方針の検討を予定している。	継続検討
17		アフターコロナに対応した外国人の視点が必要ではないか。	○「文京区 都市の概況」で区内の外国人人口の推移を整理。 ○多様な生活スタイルにおける住環境整備など、外国人だけでなく子ども、高齢者、障害者などあらゆるユニバーサルな視点として、各部門の方針を考える上で留意すべきご意見をいただきたい。	参考資料 1 継続検討
18		SDGs に関して触れるのであれば、都市計画で実現できるターゲットとゴールを明確にしていく必要がある。	○SDGs に関して、都市計画やまちづくりの視点から設定できる目標値が明確でないため、各方針で SDGs のゴールと紐づけるような整理をすることは現時点では想定していない。 ○SDGs については、「文の京」総合戦略」で整理をしているため、これに関して都市マスタープランでカバーできる内容があれば、補足的に記載していくことは考えられる。	継続検討
19	調査に関する指摘や追加してほしい資料等	アンケートの結果が見直しにどう反映されているのかがわかりづらい。	○課題整理の際の根拠データとして活用していく。	
20		文京区の特徴から見て、来訪者アンケートを都民に絞るのは範囲が狭すぎる。	○今後、検討の中で必要があれば追加調査を検討していく。	
21		主要施設へのアクセス性等を GIS で分析してみてもどうか。年齢階層、性別等別での分析が興味深い。	○今後の検討の参考とする。	
22		グリーンインフラに関して、「グリーンインフラ推進戦略（国土交通省）」の内容が分かる資料を示してほしい。	○第 2 回協議会で参考資料としてお示しする。	参考資料 4
23		スマートシティに関して文京区で参考になる事例があれば紹介してほしい。	○第 2 回協議会で参考資料としてお示しする。	参考資料 4